



宝箱を開ける大竹さん(右)と秦雅也さん(左)



あいさつを述べる清野さん

えとタイムカプセル掘り起し式

町内六つの小学校当時6年生の児童が12年前に埋めた「えとタイムカプセル」の掘り起し式は8月9日、猪苗代ハーブ園で行われ、タイムカプセルを埋めた卒業生のうち、約40人が参加しました。

「えとタイムカプセル」は、児童が将来の自分に宛てた手紙や思い出の品などを宝箱に入れ、宝箱の鍵を入れたタイムカプセルを12年後に掘り起こします。

セレモニーでは、猪苗代小学校卒業生の清野裕介さんが「今は大変なこともあります。が、当時の手紙や宝物を手にして懐かしい気分になりました」とあいさつ。参加者は、自分宛ての手紙や思い出の品を見せ合いながら、当時の思い出を語り合いました。

翁島小学校卒業生の大竹友貴さんは「私の手紙には『夢に向かって突っ走ってください』と書いてありました。今は、看護師として働いているので、これからも頑張りたいです」と話しました。



渡辺・東野選手のメッセージを紹介します

渡辺勇大選手

私は5年間猪苗代町で過ごし、成長することができました。町民の皆さんはとても温かくて、学校に行く時にあいさつをするといつも言葉を返してもらい、皆さんから愛されているんだと感じていました。銅メダルを獲得することができて、そのように応援してくれる皆さんに最初にあいさつをしたいと思って、今回報告をさせていたかったです。

改めて、オリンピックは特別な場所だと感じました。いろんな人の支えや期待を私たちが返すことができる大事な場所だと実感しました。町民の皆さんに一番目に感謝を伝えたくかったです。この銅メダルは私たち二人だけでは間違いなくとれなかったメダルだと思っています。いろんな人の思いが銅メダルという形になったと思います。なかなか猪苗代には会いに行けませんが、オンラインで感謝を伝えることができうれしいです。応援ありがとうございました。

【子どもたちへのメッセージ】
私は、バドミントンという競技をもっと広めたいと思っていますので、一緒に広めていきたいと思います。

バドミントンをやっていなくても、それぞれの目標に向かっていろんなことに挑戦してほしいです。でも、途中であきらめてしまつとその道は閉ざされてしまいます。どんなに険しい道でも、高い壁にぶつかったとしてもやり続ける、挑戦し続けることで目標を達成することができます。やめないこと、あきらめずに挑戦し続けるということを心の中に留めて、学校生活やスポーツを頑張つてほしいです。



東野有紗選手

私は猪苗代町に4年間住んでいました。今、こうやってオリンピックの舞台に立つことができたのは、猪苗代町で育った4年間があったからだと思っています。猪苗代町の皆さんに支えていただいたおかげで、オリンピックで銅メダルを獲得することができました。猪苗代町は、本当にたくさんの方を教えてくださいました。

今はコロナ禍なので猪苗代町に帰ることができませんが、いつかメダルをお届けするために皆さんに会いに行きたいと思っていますので、それまで待つていってください。

これからもこの二人で、3年後のパリオリンピックでの金メダルを目指して頑張っていきたいと思います。応援よろしくお願いします。

【子どもたちへのメッセージ】
私たちは混合ダブルスをやっています。小・中学校の試合では混合ダブルスという種目がなにかもしれませんが、ぜひ、混合ダブルスを練習に取り入れて、その楽しさを知ってもらいたいです。

地域おこし協力隊通信

私たちが地域を元気に！
地域おこし協力隊

長友 海夢 さん

主な活動内容：地域活性化推進支援



地域おこし協力隊の長友海夢です。就任して今年で2年目となり、協力隊としての任期も残すところあと半分を切りました。本年度の主な活動内容は、マイナポイント申請のサポートやふるさと納税PR用ポスターの配布と新しい返礼品の開拓、キャッシュレス決済導入のサポート、フェイスブックを活用した町内の情報発信などです。協力隊の活動以外にも、地域に寄付をする取り組みや地域産品を活用した商品開発、移住促進など、さまざまなことに取り組んでいます。

私は幼い頃に猪苗代に住んでいたこともあり、任期満了後も定住するつもりで協力隊に就任しました。活動を通じ、改めて猪苗代に定住したいという思いを強く感じるようになりました。最近では、そば打ちの練習を毎週行っており、協力隊卒業後はそば打ち職人としても活動したいと考えています。

まだまだ経験不足で手探りの状態ですが、引き続き「猪苗代ファースト」で、地域に貢献できるような活動を続けていきます。